

株主のみなさまへ 第152期



上半期株主通信

平成27年4月1日から平成27年9月30日まで

第一工業製薬株式会社

証券コード4461

A large, semi-transparent version of the 'DKS' logo is overlaid on a scenic background of mountains and a rainbow. The logo is rendered in a light blue color, allowing the background to be visible through it. The background features a vibrant blue sky with a multi-colored rainbow arching across it, and a range of green and brown mountains in the foreground.



代表取締役
会長 兼 社長

坂本隆司

Q1 上半期の経営概況と主な取り組みをお聞かせください

「飛躍への行動を」と掲げた新5カ年計画「REACT1000」が始動しました。初年度上半期の当社グループの業績は、売上高は271億12百万円（前年同四半期比3.3%減少）、営業利益は16億円（前年同四半期比15.4%増加）、経常利益は15億15百万円（前年同四半期比17.4%増加）、四半期純利益は10億3百万円（前年同四半期比16.4%増加）となりました。利益目標はクリアしましたが、これからの下半期に向かって計画の実現を目指します。

上半期の取り組みについて2つあげます。1つは、新工場の稼働です。これまでのように製造だけでなく、

飛躍に向かって、新5カ年計画「REACT1000」を着実に推進していきます。



飛躍への行動を

新しい価値の創造拠点という役割を担わせます。2つめは、お客様と連携して新開発につなげる「クローズド・オープン・イノベーション」を推進していることです。“連携による優位性の構築”とも呼んでいます。互いの異なる得意分野で共通テーマを探り、新製品を生みだしていく取り組みです。これは2つの事業で成果が実り、収益に貢献しています。

Q2 マザー工場「霞工場」の竣工についてお聞かせください

稼働を始めた霞工場の竣工は7月21日でした。46年前にアメリカの宇宙船・アポロ11号が月面に着陸した日です。アームストロング船長は「これは一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては偉大な飛躍である」と地球にメッセージを送ってきました。霞工場の竣工は、当社が飛躍する第一歩を踏み出した日と言えるでしょう。

飛躍を実現するマザー工場としての役割のひとつに、研究開発機能があります。製造現場で、当社が持つコア技術の「周辺」に点在する高付加価値製品の開発を実行します。経営計画で実行するテーマをREACTマトリクスと称し一覧化しました。周辺開発を「ネクスト」、M&Aや提携を「ドリーム」と呼び、これらに関連した行動となります。工場内のテクニカルセンターを最大限に活用します。4月に刷新した基幹システムを活用して、「考えるスマート工場化」を図ります。話題のインダストリー4.0のDKS版と考えています。

霞を含む四日市の4工場の他に、滋賀、新潟を合わせて6つの工場があります。それぞれに製造技術や地域ごとの特性を持っています。それらを会社全体としてどのように生かすのか、また海外を展望するのか。霞拠点、グループを見渡す「マザー工場」の役割を果たすことになるのです。

化学工場として安全に万全の配慮をしながら、霞工場を株主様や地元の方、アナリストの方などに見学していただけるようにします。立ち入り禁止ではなく、ステークホルダーの皆様と「対話する工場」に進化させたいと願っています。

Q3 セルロースナノファイバー活用の製品についてお聞かせください

当社が次世代素材として位置づけているのは、セルロースシングルナノファイバー（製品名：レオクリスタ）です。森のノーベル賞と呼ばれる「マルクス・ヴァーレンベリ賞」を今年授賞された東京大学の磯貝明教授らの研究成果を基に、当社が保有するセルロース応用技術を活用して開発を進めました。

経済産業省の「平成26年度地域イノベーション協創プログラム補助金（新事業展開実現可能性調査事業）」の対象となりました。そして世界初の実用化として、三菱鉛筆様のボールペン「ユニボール シグノ」のインク増粘剤に採用されました。2015年3月から北米で発売、9月から販売地域は欧州に拡大しました。なめらかな書き味が評価され、人気を博しています。また化粧品分野

においても商品化の計画が進行中です。さらに、環境省の「平成27年度セルロースナノファイバー活用製品の性能評価事業委託業務に係わる公募」に採択され、レオクリスタを活用したリチウムイオン二次電池の開発が進みます。このように、同じ材料ですが用途がまったく違うところに化学の面白さがあります。今後も様々な領域で用途開発を進め、レオクリスタの本格的な事業化を目指します。

Q4 株主のみなさまへメッセージをお願いします

当社は第三の創業期に入ったと判断しています。1909年に絹糸に係わる薬品を製造して創業し、洗剤を主に順調に業容を拡大しました。しかし、競争激化の中で1973年に家庭品からの撤退を決め、現在の工業用薬剤に特化する道を選びました。これが第二の創業であったと振り返ります。2015年、四日市に10万平米の用地を購入し建設した霞工場の誕生により、第四次革命に向かって飛躍する第三の創業期への基盤が整いました。電子材料の2つの事業とリニア中央新幹線向けの岩盤固結剤事業が稼働を待っています。本社化した東京オフィスから株主の皆様とのお話、アナリストとの対話、官公庁訪問など、情報の受発信を高めてきました。繰り返す行動で応えて「REACT1000」の実現に努めます。株主の皆様には、夢のある企業を見守っていただきたいと願っています。

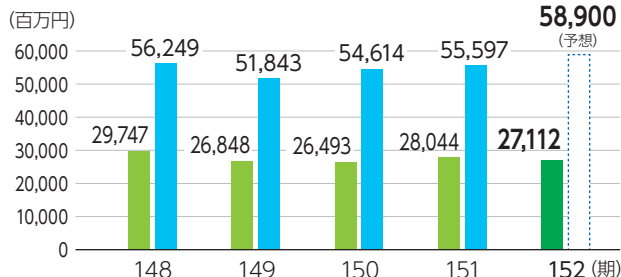
平成27年12月

財務データ (連結)

売上高

■ 第2四半期累計
■ 通期

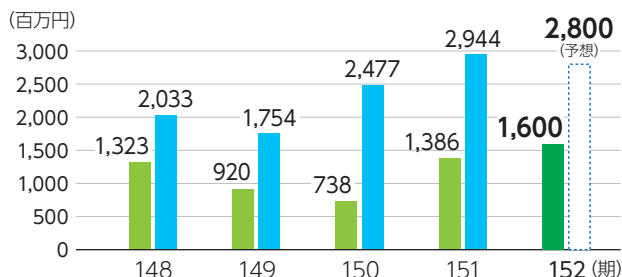
前年同期比
3.3% ↓ 減



営業利益

■ 第2四半期累計
■ 通期

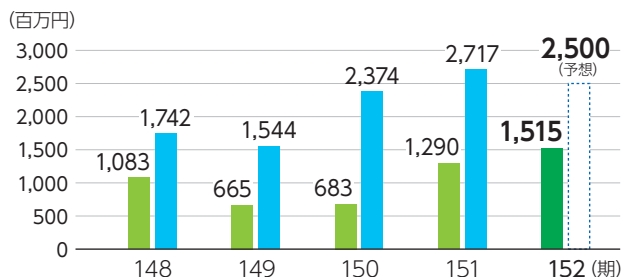
前年同期比
15.4% ↑ 増



経常利益

■ 第2四半期累計
■ 通期

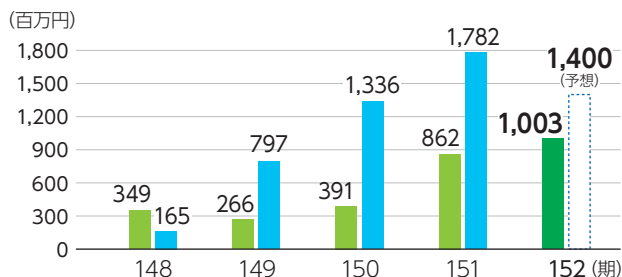
前年同期比
17.4% ↑ 増



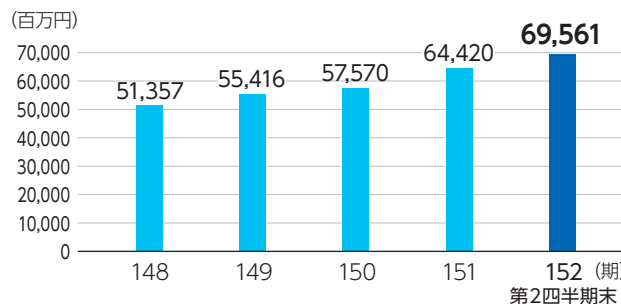
四半期純利益

■ 第2四半期累計
■ 通期

前年同期比
16.4% ↑ 増

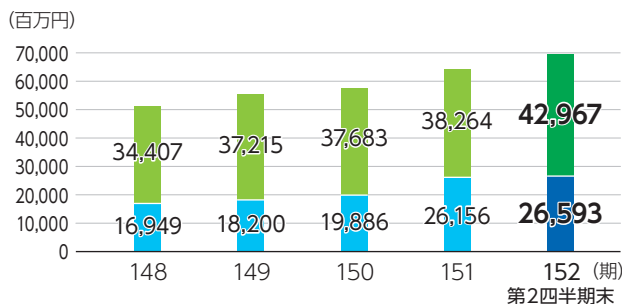


総資産



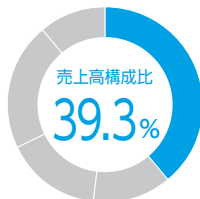
負債及び純資産

■ 純資産 ■ 負債



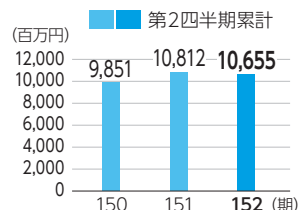
事業セグメントの概況

界面活性剤事業



売上高 106億55百万円 前年同期比 1.5% 減

界面活性剤は、IT・電子用途は引き続き伸長しましたが、石鹸・洗剤用途や機械・金属用途がやや低迷したこと等により、総じてやや低迷しました。

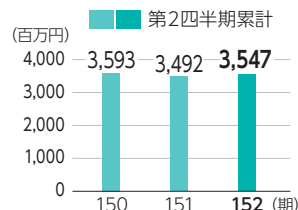


アメニティ材料事業

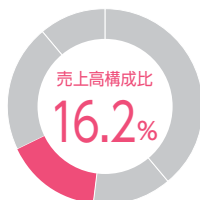


売上高 35億47百万円 前年同期比 1.6% 増

アメニティ材料は、飼料用途等のセルローズ系高分子材料はやや低調に推移しましたが、海外で食品用途のシヨ糖脂肪酸エステルが好調に推移したこと等により、総じて好調に推移しました。

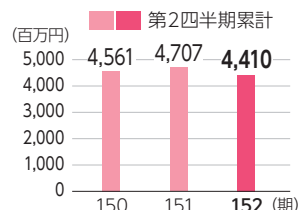


ウレタン材料事業



売上高 44億10百万円 前年同期比 6.3% 減

ウレタン材料は、環境配慮型の合成潤滑油がやや低迷したことや、土木用薬剤が公共工事の減少により低迷したこと等により、総じて低迷しました。

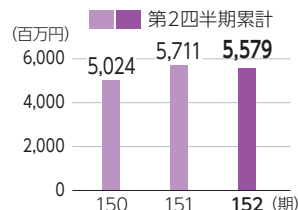


機能材料事業



売上高 55億79百万円 前年同期比 2.3% 減

機能材料は、繊維用途の水系ウレタン樹脂は好調に推移し、光硬化樹脂用材料は堅調に推移しましたが、臭素系のゴム・プラスチック用難燃剤が低迷したこと等により、総じてやや低迷しました。

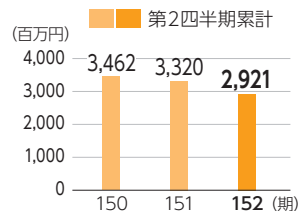


電子デバイス材料事業



売上高 29億21百万円 前年同期比 12.0% 減

電子デバイス材料は、セラミックス材料の射出成形用ペレットは伸長しましたが、太陽電池用途の導電性ペーストが顕著に落ち込んだこと等により、総じて大きく落ち込みました。



トピックス



界面活性剤事業

環境・健康にやさしい「水系塗料・粘着剤」の材料 反応性界面活性剤 アクアロンシリーズ

市場 動向

揮発性有機化合物(VOC)排出の原因となる有機溶剤を使用しない「水系」への置き換えが進んでいます。

溶剤系の塗料・粘着剤を水系のものに置き換えようとする試みは、2018年には2012年実績の約1.2倍に増えると予測されています。特に中国を始めとするアジアでは、建築・土木分野や一般工業の発展と連動した市場の拡大が見込まれています。しかし、溶剤系の塗料や粘着剤と比べて水系のものは耐水性・粘着性などの物性が低いという課題があり、その改善が求められています。

製品 機能性

アクアロンシリーズは、水系塗料・粘着剤の材料として、塗料・紙・繊維・建築などの幅広い用途で活用されています。

水系塗料・粘着剤の製造には界面活性剤が必要不可欠です。しかし、従来の界面活性剤は遊離しやすく、耐水性や接着性の低下など塗料・粘着剤の物性に悪影響を及ぼすことがありました。この問題を解決するため、界面活性剤を化学結合で固定化する「反応性界面活性剤」の開発が1970年代に日本で始まり、当社が製品化したのがアクアロンシリーズです。1990年代の発売から技術革新を重ね、水系塗料・粘着剤の長期保存安定性、凍結融解安定性、耐水性、粘着性などの向上を実現し、良質な水系塗料・粘着剤の普及に貢献し続けています。

今後は

海外での普及率の向上とさらなる高機能化に挑戦します。

反応性界面活性剤は海外での普及率が1~2%と推定されており、市場が伸びる余地の大きい海外への技術支援をさらに強化していくとともに、長年培った技術力でさらなる高機能化にも注力し、国内外での需要拡大を目指していきます。



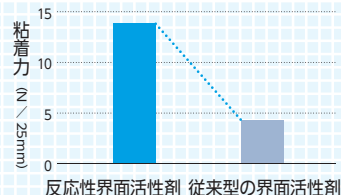
・耐水性試験の外観

3	4	5	6	7	8
10	11	12	13	14	15
17	18	19	20	21	22

反応性界面活性剤 従来型の界面活性剤

水を呼び込みにくいので、
雨水や結露に強い
塗料・粘着剤ができます

・粘着テープの粘着力



約3倍の粘着力で
優れた接着が期待できます

会社概要・株式の状況 (平成27年9月30日現在)

会社概要

社名……………第一工業製薬株式会社
 創業……………明治42年4月
 創立……………大正7年8月
 資本金……………88億9,520万円
 従業員数……………507名(連結946名)

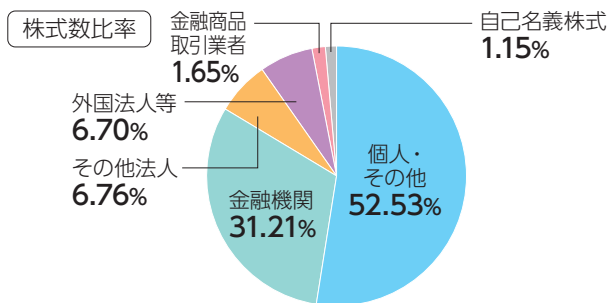
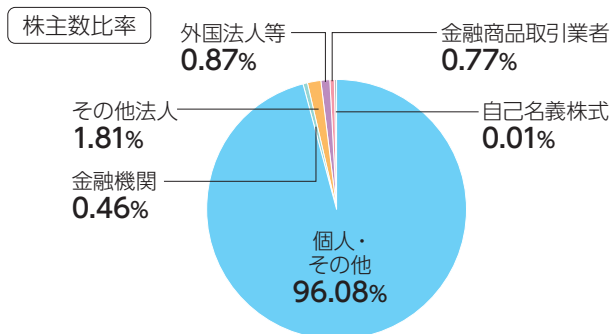
取締役、監査役、執行役員

役職	氏名	役職	氏名
代表取締役 会長兼社長	坂本隆司	代表取締役 常務取締役	松本和久
常務取締役	蛭子博幸	常務取締役	赤瀬宜伸
取締役相談役	大柳雅利	取締役	浦山 勇
取締役	藤岡敏式	取締役	大西英明
取締役	北田 明	取締役	祝迫浩一
取締役	中谷誠一	取締役(社外取締役)	本間義昭
取締役(社外取締役)	青木素直	取締役(社外取締役)	秋本信幸
常勤監査役	関口 恒	常勤監査役	西崎信一
監査役(社外監査役)	井手秀彦	監査役(社外監査役)	勝田純一
執行役員	角 英行	執行役員	村上 修
執行役員	岡本修身	執行役員	三浦宏之
執行役員	重政治寛	執行役員	丹羽浩一
執行役員	芝 泰清	執行役員	橋本賀之
執行役員	山路直貴		

事業所

- ・本店
- ・本社
- ・東京本社
- ・大阪支社
- ・名古屋支店
- ・九州支店
- ・研究所
- ・四日市事業所 千歳工場
- ・四日市事業所 霞工場
- ・大瀧事業所
- ・滋賀事業所

株主分布状況



大株主一覧(上位10名)

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
第一生命保険株式会社	3,067,000	5.74
山内 正義	2,401,000	4.49
株式会社みずほ銀行	2,135,000	4.00
株式会社京都銀行	2,085,000	3.90
朝日生命保険相互会社	1,697,000	3.18
第一工業製薬従業員持株会	1,194,117	2.24
DKS取引先持株会	1,178,000	2.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,034,000	1.94
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1,010,998	1.89
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	945,000	1.77

INFORMATION

四日市事業所霞工場(マザー工場)の竣工

7月21日、三重県四日市第3コンビナート内の霞工場の竣工式を執り行いました。式典には、当社経営陣のほか、三重県 石垣英一副知事、四日市市 田中俊行市長はじめ行政の方々や工事関係者ら110名にご出席賜り、竣工の無事を祝うとともに、今後ますますの発展を祈願しました。

所在地 三重県四日市市霞1丁目23番5
敷地 101,138㎡
主要製品 ウレタン材料、機能材料



四日市事業所霞工場の写真



竣工式の写真(平成27年7月21日)

株主メモ

創業年月	明治42年4月(1909年4月)
事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会 配当	毎年6月下旬 期末配当金受領株主確定日 3月31日 中間配当金受領株主確定日 9月30日
単元株式数	1,000株
発行済株式総数	53,421,609株 (平成27年9月30日現在)
お取扱窓口	証券会社等に口座をお持ちの場合、住所変更や買取請求等株主さまの各種手続きは、原則として口座を開設されている証券会社等経由で行っていただくこととなり

お問合せ先	ますので、ご利用の証券会社等へご連絡をお願いいたします。 証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、みずほ証券(株)及びみずほ信託銀行(株)にてお取次いたします。 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行(株) 証券代行部 フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00～17:00)
未払配当金の お支払 上場取引所	みずほ信託銀行(株)及び(株)みずほ銀行の各本店及び全国各支店 東京証券取引所(証券コード4461)

第一工業製薬株式会社

〒601-8391 京都市南区吉祥院大河原町5
TEL 075-323-5911 FAX 075-326-7356
<http://www.dks-web.co.jp>

環境・社会活動はホームページへ
 <http://www.dks-web.jp/corporate/ecology.html>

UD
FONT

